

# 経営比較分析表（平成29年度決算）

広島県 安芸高田市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金 (円)	
-	58.75	76.19	3,337	

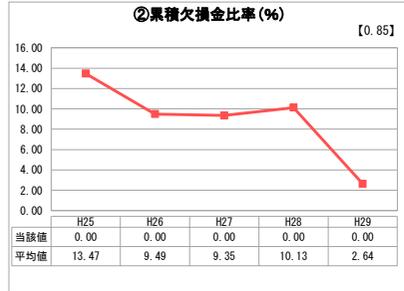
人口 (人)	面積 (km <sup>2</sup> )	人口密度 (人/km <sup>2</sup> )
29,278	537.75	54.45
現在給水人口 (人)	給水区域面積 (km <sup>2</sup> )	給水人口密度 (人/km <sup>2</sup> )
22,088	81.84	269.89

グラフ凡例	
■	当該団体値 (当該値)
—	類似団体平均値 (平均値)
【	平成29年度全国平均

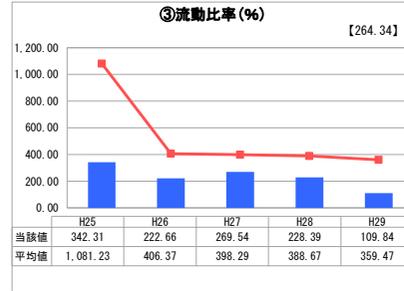
## 1. 経営の健全性・効率性



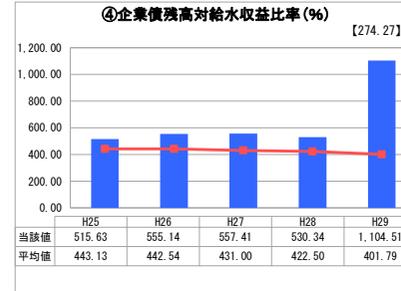
「経常損益」



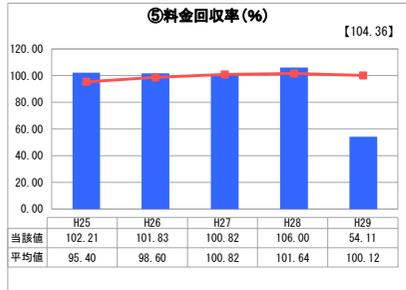
「累積欠損」



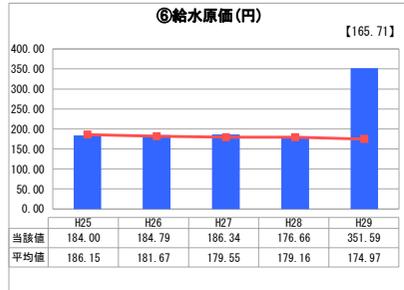
「支払能力」



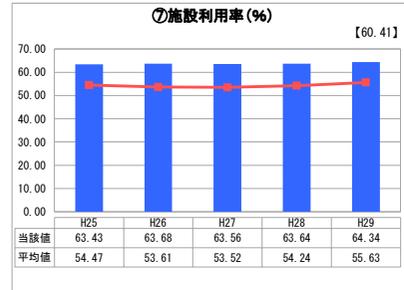
「債務残高」



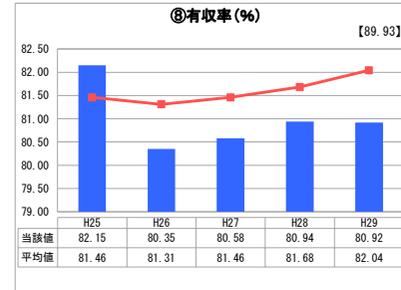
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

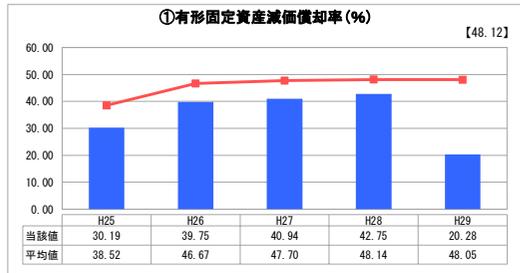


「施設の効率性」

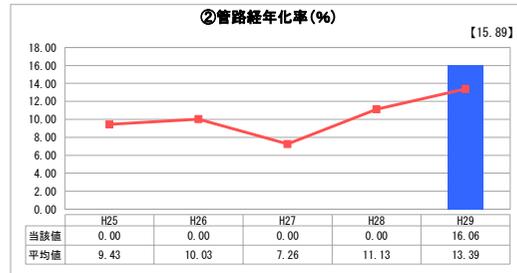


「供給した配水量の効率性」

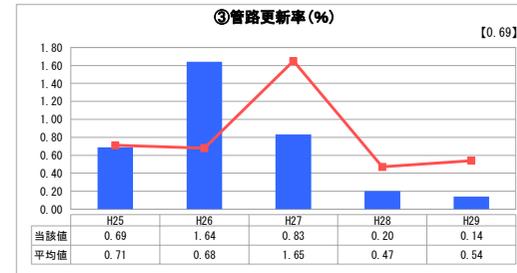
## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

「①経常収支比率」は一般会計からの繰入金収益により単年度収支は黒字となった。今後、繰入金の削減があれば黒字を維持できない可能性がある。  
 「②累積欠損比率」は欠損金を生じていないため0%で推移している。  
 「③流動比率」は100%を上回っていることから、短期的な支払い能力は確保できている。  
 「④企業債残高対給水収益比率」は簡易水道事業の統合に伴う企業債残高の増加によって上昇した。  
 「⑤料金回収率」は平成28年度に比べ低下し、「⑥給水原価」は上昇した。いずれも簡易水道事業の統合によるもので、経費節減や料金の見直しをする必要がある。  
 「⑦施設利用率」は類似団体平均値、全国平均より高い数値で推移している。施設を効率的に利用していると考えられる。  
 「⑧有収率」は80%台で推移しており、類似団体平均値を下回っている。漏水調査・修理を実施し有収率向上に努める必要がある。

### 2. 老朽化の状況について

「①有形固定資産減価償却率」は平成28年度に比べ低下しているが、これは比較的新しい施設を有する簡易水道事業の統合によるものと思われる。しかし、今後は「②管路経年化率」が上昇するため、計画的かつ効率的な更新を実施していく必要がある。

## 全体総括

平成28年度に策定し年次更新している経営戦略に基づき、経営の健全性と効率性を高めるため、料金改定による料金収入の確保をすとともに計画的な施設の更新と維持管理を実施していく必要がある。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。